

仕様書

1. 件名

事業者・農業者支援システムの業務支援・改修・保守・運用委託（2024年度）

2. 経緯と目的

公益社団法人福島相双復興推進機構（以下、当機構）が行う相談型支援事業及び復興・創生事業の基幹システムである事業者・農業者支援システム（以下本システム）について、業務支援・改修・保守・運用委託を行うことを目的とする。

3. 本システムの概要

本システムは、機構が支援する事業者・農業者に関する様々な情報を一元管理し、業務に必要な機能・帳票を提供する。

4. 委託業務内容

以下業務を実施すること

（1）業務支援・改修業務

① 要件定義業務

業務部門に改修の要望をヒアリングし、実装する画面、機能イメージ、業務フロー図などを作成する。ヒアリング（基本対面で行う）結果をもとに、改修の年間計画について立案、変更を機構と調整の上行う。特に大規模案件については平準化できるよう考慮すること。

② 設計業務

要件定義に基づき、画面設計書、状態遷移図、DB定義書などの設計書類を作成する。

③ ソフトウェア維持業務

a. ソフトウェアの改修、改善

- ・設計不備に起因するソフトウェアの修正
- ・データ増加、ソフトウェアのバージョンアップに伴うプログラム修理
- ・視認性改善を目的とした、表示桁数の変更、項目の非表示等のソフトウェアの修正
- ・システム内整合を目的とした文言の変更等のためのソフトウェアの修正
- ・業務要件に合わせた機能追加のためのソフトウェアの修正 等

b. デプロイモジュール抽出、手順確認（デプロイ対象変更時の再抽出も含む）、エラー調査

c. 環境整備業務

- ・ソフトウェアのプログラムリスト整理
- ・ソフトウェアのプログラムファイル更新
- ・ソフトウェア維持業務を実施した際のDB設計書等の更新
- ・その他、依頼に応じた対象資料（DB設計書含む）の更新

④ テスト業務

開発済のソフトウェアについて、設計書に基づいてソフトウェアが作成されているか確認するため、テスト仕様書を作成し、機能テストを実施する。

機能テスト完了後はユーザが受入テストを行うための UAT 資料を作成する。

UAT (ユーザテスト) が効果的にできるよう、機能テスト後に業務方と綿密に打合せを行うとともに業務に即したテストケースの作成を支援する。

実際の業務フローに沿ったテストを行うための環境整備 (本番環境をコピーしたシステム環境の整備など) を検討すること。

⑤ リリース対応

リリース用パッケージの作成及びリリース行う。

また、リリース結果手順書に沿ってリリース結果の確認を行う。

※ 改修については委託期間に発生する案件のみとし、改修のスケジュールについては、別途指示する。

※ 小規模案件 15 案件/年 2.5 人月 程度の改修を予定

※ 大規模案件 (7.5 人月 以上) となるような案件で、当契約の年間工数内での対応が不可能と想定されるものは、別途個別契約を行うものとする。

(2) 保守・運用業務

① 日常対応業務

- ・ソフトウェアの仕様、不具合、使用方法に関する問合せの受付・回答
- ・Salesforce の年 3 回バージョンリリースの影響調査、対応
- ・バックアップ作業支援として、FullSandbox へのリフレッシュ作業 (1 回/月 目途)
- ・案件規模概算資料の作成 (対応案件ごと)
- ・定期的なミーティング及び報告の実施

② 運用業務

- ・業務部門からのシステム仕様に関する問い合わせ (障害を含む) 対応、データ修正、ユーザメンテナンス対応の実施。

データ修正については、データ修正作業に加え、依頼者からの受付、内容確認、修正スケジュールの調整などを行う。

③ Tableau 保守業務

- ・事業者・農業者支援システム等のデータを用いて当機構で利用している Tableau (BI ツール) にて作成されたワークブック等についてのメンテナンス
- ・要件ヒアリング
- ・ヒアリング取りまとめ資料作成 (モックレベル)
- ・作成・テスト/パブリッシュ作業

なお、具体的な対応内容は、当機構との協議によって決定するものとする。

※ 各業務遂行のための調整および業務部門との調整にあたっては、当機構福島本部へ週 1 回程度の出張にて対面で行う事。

5. 従事者の要件

ソフトウェア開発事業者（セールスフォースの開発経験を有すること）

6. 委託期間

2024年4月1日（月）～2025年3月31日（月）

※ 業務委託契約書と異なる場合は、業務委託契約書を正とする。

7. 納入物

- ・実装する画面、機能イメージ、業務フロー図など（作成の可否は改修の内容による）
- ・設計書類（改修の内容により異なる）
- ・UAT資料（業務グループ向け）
- ・テスト仕様書、テスト結果報告書
- ・リリース結果確認順書、リリース結果報告書
- ・プログラムリリース手順書（トレーニング環境向け、本番環境向け）
- ・プログラムリリース結果報告書（トレーニング環境向け、本番環境向け）
- ・その他、当委託業務で作成した資料
- ・完了報告書

*DVDメディアに格納して納品

尚、納品に関しては、上期、下期毎に納入する事。

- ・上期分：2024年4月1日（月）～2024年9月30日（月）
- ・下期分：2024年10月1日（火）～2025年3月31日（月）

8. 納入場所

福島県福島市栄町6番6号 ユニックスビル4F

公益社団法人 福島相双復興推進機構 総務調整グループ業務調整部システム課

9. その他

- （1）本業務の実施に当たっては、当機構と十分に打ち合わせを行い、指示があった場合には、それに従い実施すること。
- （2）本業務の実施途中で問題、事故等が発生した場合には、直ちに当機構に連絡するとともに受託先の責任において解決すること。
- （3）その他、不明な点がある場合には、当機構に問い合わせること。

10. 参考

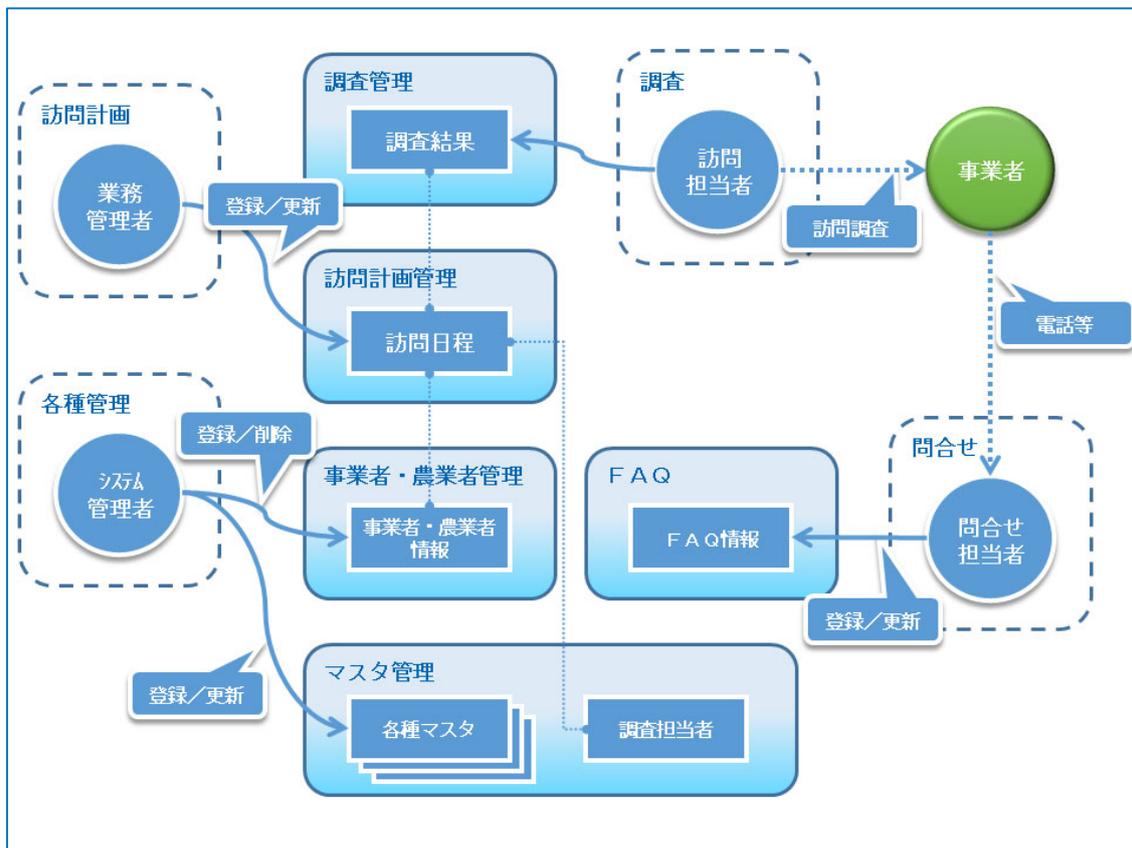
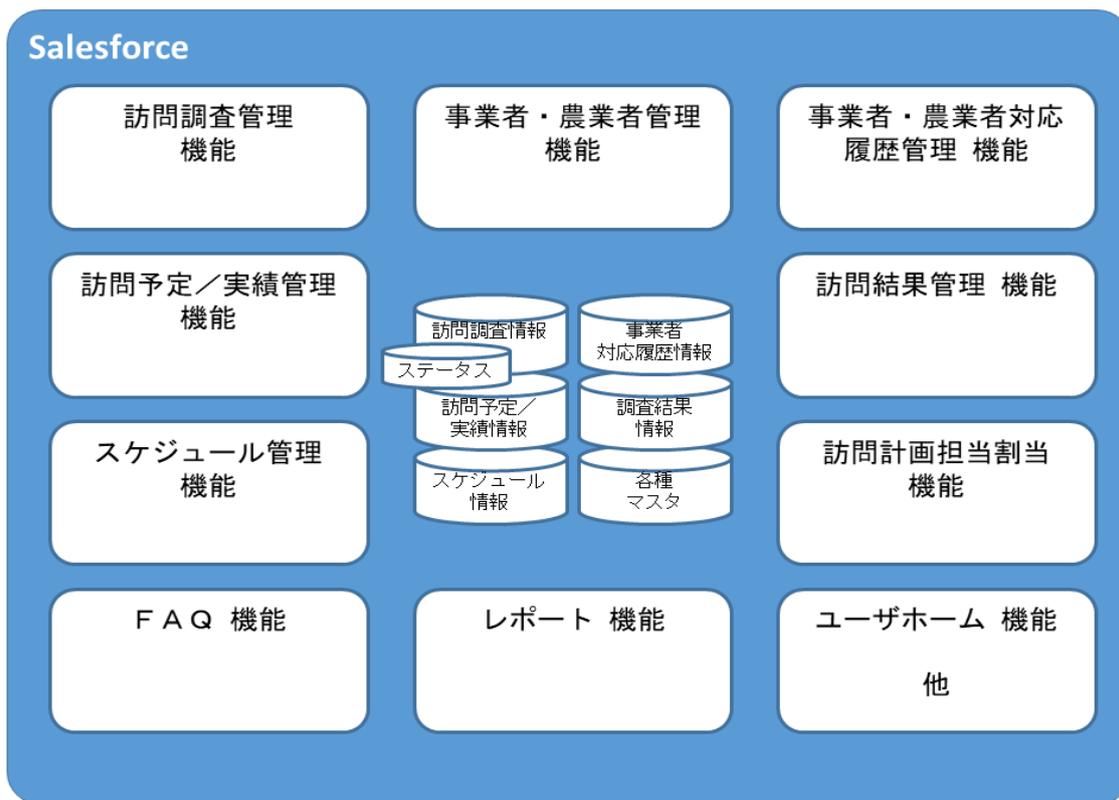
- ・【別紙1】事業者・農業者支援システム
- ・【事業者・農業者支援SYS】2024年度改修予定案件一覧

以上

【別紙 1】

＜事業者・農業者支援システム＞

セールスフォース・ドットコム提供の基板上で稼働する「Force.com」ソフトウェア



■事業者支援システム 2024年度改修予定案件一覧

No.	件名	要求内容・目的	改修による効果・価値	備考（展開方法）
1	【小規模】自立経営維持判定（ST6）の承認書の簡素化	目的：煩雑であった自立経営維持判定（ST6）の承認書の簡素化をすることで、業務を効率化したい。 内容：・承認書の確認事項にプルダウンを追加し、定型的にする。 ・ST6承認後、承認書の「接触方法」欄の選択肢と、事業者情報の「接触方法」欄の選択肢とを連動させる。		
2	【小規模】調査結果画面における「訪問予定／実績参照」ボタン押下時の「エラーメッセージ表示」の解消	調査結果画面における「訪問予定／実績参照」ボタン押下時の「エラーメッセージ表示」の解消	システム上の考慮不足修正	
3	【小規模】訪問予定/実績の訪問結果サマリー文の変更	サマリー定型文の項目番号を「■」から「①～⑥」の項目番号に変更する	項目番号とすることで、記載漏れなどを防止する	
4	【小規模】モニタリングステータスの追加（AFIDの発番に併せて、新たにCGIDを発番していたが、これら2つのID発番を廃止）	専門家支援完了後のモニタリングは、AFIDの発番に併せて、新たにCGIDを発番していたが、これら2つのID発番を廃止し、専門家支援につなげた、CGIDに新たなステータス（支援完了後モニタリング）を作り、専門家支援完了後のモニタリングについては、CGIDを継続使用する	専門家支援完了後のモニタリング時に発番していたCGIG（初期診断中）と、新規の課題対応（初期診断中）との切り分けが可能となり、専門家支援完了後モニタリングと新たな課題への対応について、状況把握が可能となる	
5	【小規模】初期診断結果登録の簡素化（初期診断画面への定型文追加）	自由記述欄が多く作成に時間がかかる・内容にバラツキがあるため、「初期診断における検証事項」は定型文に固定する	データ入力を簡素化することで入力の効率化、品質の向上を図る	
6	【小規模】知見DBの改修	知見DBの「業務情報」について、項目名の変更や階層的な表示に変更する	形骸化したデータの最新化と見やすさの改善による利用促進と利用促進に伴う効率化をきたい	
7	【小規模】自立経営維持判定（ST6）の承認書の簡素化の個別件名化	・上記「自立経営維持判定（ST6）の承認書の簡素化」のうち、以下の対応を個別件名とする ・ST6承認後、承認書の「接触方法」欄の選択肢と、事業者情報の「接触方法」欄の選択肢とを連動させる。	ST6自立経営判定後において、事業者情報の「接触方法」欄を手動入力していたため、「入力漏れが発生」した場合、対応に不備（長期未訪問等の発生）が発生する可能性があるため、アクションと連動させることにより対応漏れが生じるリスクが軽減される。	

■ 農業者支援システム 2024年度改修予定案件一覧

No.	件名	要求内容・目的	改修による効果・価値	備考（展開方法）
1	【小規模】支援・フォローアップ案件画面の編集機能ロック	支援・フォローアップ案件の編集については、現状使用しておりません。過去の経緯等をバックアップとして参照しているため、編集は不要なことから、この機能をロックする。	・過去の支援・フォローアップ件名の対応経緯等が保存されている貴重なデータへの編集を防止する。	
2	【小規模】官民合同チームへの情報提供同意書取得済フラグをデフォルトで「false」に変更	・「官民合同チームへの情報提供同意書取得済フラグ」の仕様調査 ・メッセージ「官民合同チームへの情報提供同意書取得済みフラグOFFの場合、…」の実装や改修履歴の調査	BBAとCCAとの不整合の確認およびシステム修正依頼が不要となることから効率化が図られる。	
3	【小規模】ステージ自動反映ルールの変更	訪問結果登録「確定完了ボタン押下」時のステージ5-4「当面支援不要」自動反映条件を変更する。	管理者権限編集による、農業者情報画面からの「一時休止フラグ」操作を削減できる。	